



『いのちのために まじめに未来を考える。』

特定営利活動法人 生きものと食べものの未来

11月を迎え、いつの間にか秋がはじまり、服装が悩ましい今日この頃です。

生き食べ未来通信は、「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」の会員様にお送りしています。皆様との情報提供・交換の場となればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

では、「生き食べ未来 通信」5号をお届けいたします。

/// I N D E X ///

- ・巻頭言.....
- ・活動紹介..... 10月の活動実績/今後の予定
- ・特集..... 展示会情報
- ・会員企業様ご紹介..... 株式会社果実堂
- ・イベント情報..... FOOD STYLE Kyushu
- ・コラム：私の提言..... 肥大化するハラスメントと失われていく大切なもの
- ・コラム..... 72歳のウェルビーイング 2
- ・コラム..... かつてパン作りを生業にした者のひとりごと
- ・食べもの紀行..... 沖縄 あかきたな
- ・10月にご入会いただいた方
- ・コーヒーブレイク..... 図書紹介
- ・編集後記.....



巻頭言



私は、最近日常の生活が変わったと感じています。ボケないために、頭を使う。体を動かす。社会とのつながりを持つ。そして理にかなった食事をする。それを意識し始めました。これが9月号で取り上げたテーマ：ウェルビーイングの秘訣だと思います。まず、頭の使い方である。私にとって幸いにこの巻頭言を書くことで、今までにいかにも不勉強であったか、結果、知識不足、今まで以上に学ばなければならないことを自覚しました。体を動かす。この夏から朝の日課として大濠公園4キロ散歩を始めました。歩きながら、《生き食べ未来通信》の掲載記事を考える。毎回頭をひねり文章を書くことで、ウェルビーイング、ボケ防止に加え、情報感度も飛躍的に高まったと感じるこの頃です。

春と秋は、食品業界にとり新商品の発表もあってひとときわ展示会が多い。今年3月まで勤務した生物食品研究所では、食品開発プランナーとして、3月6日からのFOODEX JAPAN2024を最後に、今まで毎年幕張メッセで開催のスーパーマーケットトレードショー、東京ビックサイトで開催の食品開発展、プレミアムフードショー、FOODEX JAPAN、そして、福岡で開催の西日本食品産業創造展、Food Expo Kyushu、Food Style Kyushu などを見学してきました。また、そのついでに都内のアンテナショップや百貨店、銀座な

どで注目されているお店にも行ってきました。アンテナショップは、銀座地区「銀座の金沢」「ひろしまブランドショップtau」「おいしい山形プラザ」「銀座わしたショップ本店」「まるごと高知」、有楽町交通会館内「北海道プラザ」「秋田県ショップ」「和歌山県ショップ」など、日本橋地区「この滋賀」「日本橋とやま館」「三重テラス」を見学しています。日本橋千疋屋総本店は、福岡県のブランド柿「秋王」の発売予定日や販売価格、売り出し方の確認のために立ち寄っていました。

展示会見学や市場調査による情報収集は、新しい商品を創るために最も大切な事柄の一つです。お店でどんなお客が、どんな商品を手に取り購入しているか現場で見て、知ること、また、メーカーがお客に手に取ってもらえるための創意工夫、それらの情報を会員みなさんに提供し、活用していただくことは、業界誌や書籍、また、人的交流から得られる情報とともに当NPO法人の役割の一つと考えています。

今月号では、福岡国際センターで開催された「Food Expo Kyushu2024」、東京ビックサイトで開催された「食品開発展」の情報をお伝えしていきます。

理事長 川上龍太郎



10月の活動実績

★10月10日 会員からの会社紹介及び訪問依頼により、前の職場である生物食品研究所の利用者である（株）通宝（海苔製品と風雅巻を製造販売）を訪問しました。（川上）

★「Food Expo Kyushu」を見学

日程：10月11・12日

場所：福岡国際センター

九州産農産物、加工食品を国内外に発信する食の展示会や商談会であり、詳しくは特集で紹介します。

（川上、竹田津）

★10月17日 会員からの会社紹介及び訪問依頼により、前の職場である生物食品研究所の利用者である（株）通宝（海苔製品と風雅巻を製造販売）を訪問しました。（川上）

★10月21日 法人会員で毎月活動支援を受けている（株）森光商店様及び（株）ママミール様を訪問しました。各社からの相談への対応を行っています。（川上、竹田津）

★10月22日 別府市にある（株）鶴見運送様より当NPQへ支援の申し出と大分冷凍冷蔵物流センターの保税蔵置場認可取得の相談に対応するため会社訪問をしました。（竹田津）

★10月23日～25日 東京ビッグサイトで開催された「食品開発展2024」に最新情報を入手と情報提供するために訪問しました。食品に関する展示会では、最大規模であり、新素材、新技術の発表があります。詳しくは特集で紹介します。（竹田津）

★10月24日 マリンメッセ福岡で開催の九州アグロ・イノベーションを見学しました。（川上）

★10月25日 九州産業大学食品科学コース食品開発論講義を見学しました。（川上）

★10月29日 （株）鶴見運送への2回目の訪問をしました（竹田津）。



★未来を担う理科好きの子どもへの事業

日時：10月6日（日）10時～12時 ぷよぷよを科学する！

場所：福岡市中央児童館あいくる 担当：おもしろ！ふしぎ？実験隊

今後の予定

★F00D STYLE 見学

日程：11月13日、14日

場所：マリンメッセ福岡 A館・B館

★九州産業大学 生命科学部生命科学科2年、3年生を対象とした講義

日時：11月15日 午前・午後

テーマ：「食の倫理と哲学」

場所：九州産業大学8号館8215教室

★第3回『生き食べ未来の集い』

日時：12月1日 14時30分～16時

場所：あすみん 4階

テーマ：これから食に関わるひとへのメッセージ（仮題）

★未来を担う理科好きの子どもへの事業

実験型で理科の楽しさを伝える「あすみん」科学館

偏光板で見えないものを見る！

先着順 定員：30人 対象：小学生以上 参加費：300円 11/3 (日) 10時～12時

「あすみん」科学館で、偏光板を使った観察実験を行います。偏光板を通して、液晶ディスプレイの内部構造や、液晶の性質を観察することができます。また、偏光板を使った観察実験を通して、液晶の性質や、液晶ディスプレイの内部構造について学びます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

実験型で理科の楽しさを伝える「あすみん」科学館

飛び出せ！3Dを科学する@あすみん

先着順 定員：30人 対象：小学生以上 参加費：300円 11/4 (祝日) 14時30分～16時

「あすみん」科学館で、3D装置を使った観察実験を行います。3D装置を通して、3D装置の内部構造や、3D装置の性質を観察することができます。また、3D装置を使った観察実験を通して、3D装置の性質や、3D装置の内部構造について学びます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

実験型で理科の楽しさを伝える「あすみん」科学館

科学マジック de Xmas

12/1 (日) ①13:20～14:20 ②14:20～15:20

①②は同じ活動です。どちらかに、ご参加ください。

先着順：20人 対象：小学生以上 参加費：300円 12/1 (日) 13:20～14:20

「あすみん」科学館で、科学マジックを使った観察実験を行います。科学マジックを通して、科学マジックの内部構造や、科学マジックの性質を観察することができます。また、科学マジックを使った観察実験を通して、科学マジックの性質や、科学マジックの内部構造について学びます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

実験型：あすみん「あすみん」科学館

講師：矢野 利和子 子どもゆめ基金助成活動：本活動では子どもゆめ基金への助成金の活用を目的としています。助成金の活用は、助成金の活用目的に準じて行われます。

どの活動も、
応募を開始しており
まだ空きがございます。

ぜひ、お知り合いの方に
詳細のサイトをシェアして
いただけましたら幸いです！

①11月3日（日）10時～12時 『偏光板で見えないものを見てみよう！』

募集：先着順 定員：30人

参加費：300円（支援金を受けておりますので、お安くなっております）

場所：[あいくる（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス7F）](#)

スマホやテレビの画面に使われている偏光板のふしぎについて体験します。
水晶/プラスチック/水あめ/ガラスなどを観察できるキットを作ります。詳細は、[こちらから](#)。



②11月4日（祝日）14時15分～16時15分 『飛び出せ！3Dを科学する』

参加費：300円（支援金を受けておりますので、お安くなっております）

場所：[あすみん（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス4F）](#)

赤青ライトとメガネで3D装置を自作し3Dを体験！
立体視できる理由を学習します。たくさんの展示物で3Dを体感し、理解を深めます。詳細は、[こちらから](#)。



③ 12月1日（日）

募集：先着順 定員：40人

参加費：150円（支援金を受けておりますので、お安くなっております）

場所：[あいくる（福岡市中央区今泉1-19-22 西鉄天神クラス7F）](#)

ハンドパワー!?や念力!?で、スプーン?曲や透視実験を行います。
クリスマスっぽいライト工作も行います。詳細は、[こちらから](#)。



特集：展示会情報

★[FOOD EXPO 2024](#) 10/8（火）、9（水） 福岡国際センター

世界的にも優れた高付加価値の九州産農林水産物、加工食品を国内外に発信し地場食品関連企業の更なる売上向上、販路拡大及び地域振興を図ることを目的に開催した食の展示会と商談会である。輸出強化のために出展した会社とそれをサポートするJETROや九州農政局、輸出促進協議会などが目立っていた。また、九州電力が陸上養殖みらいサーモン、西日本鉄道がイチゴとトマト（にしてつ農園で栽培）を両社ともに新規授業として取り組み始め、出展していた。また、輸出に関連したセミナーなどありました。

★[九州アグロ・イノベーション～九州みどりの食料システム2024～](#) 10/23(水)、24(木)

同時開催 九州・沖縄観光、宿泊・外食産業展 マリンメッセ福岡B館

日本能率協会が主催した農業と観光に関わる展示会及び講演会である。展示は、ドローン、自動灌水装置などの機械装置や土壌分析、灌水、減農薬など環境負荷の低減、スマート農業に関連したものが目立っていた。講演では、農水省戦略室長久保麻衣子氏の「みどりの食料システム戦略」や高上実高上青果社長の「農産物高付加価値化の方策」があった。観光・宿泊・外食のコーナーでは、省力化やインバウンドへの対応、サウナや温浴施設、客室備品などの展示があり、講演では、「心を動かすリーダーシップ～従業員のエネルギーの高め方～」のテーマで元横浜ベイスターズ監督中畑清氏の講演があった。

★[食品開発展2024](#) 10/23(水)-25(金) 東京ビッグサイト西1・2・4

昨年に引き続き、食品開発展を視察した。

出店は700社近くに及び、コロナ禍明けも浸透し、多くの来場者（3日間で約4万人：主催社発表）で賑わっていた。

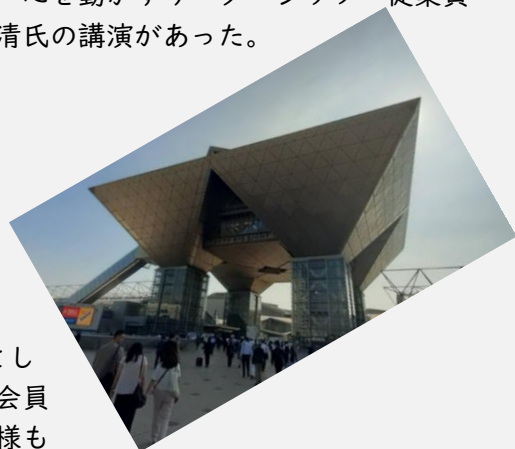
SDGS、機能性、環境、安心・安全などが大きなテーマで今回はNPOとして視察する初めての食品開発展でどのような視点で視察し、今後の会員の皆様に情報提供が出来る様に視察した。生食研時代からの事業者様も多く出展されており、NPOの紹介も兼ねて、名刺とリーフレットを配布させて頂きました。

中でも森光商店様のブースでは高オレイン酸大豆のオイル（画像①参照）も展示されており、関心を集めていた。出身のニチレイフーズのブース（画像②参照）にも立ち寄り、アセロラスムージーを試飲した。

訪問先：森光商店（橋爪常務、今村課長、武田主任）、金秀バイオ（高良係長）、製茶百年本舗（代表取締役社長清水崇弘）、占部大観堂製菓（営業課延田氏）、日本食品分析センター（事務所長代行佐藤氏）、丸新（遠藤主任）、室町ケミカル（笹生課長）、ニチレイフーズ（高尾Mgr.）、炭プラスラボ（森田氏）、長田産業（仲川主任）、横浜油脂工業（千原主任）、山口県予防保険協

会食品環境検査センター（久保センター長）、スマシヨク（代表取締役社長西田陽介氏）、マエダ・スーパー・テクノ（新田課長）、伊那食品工業（高橋課長）、暁酵素その他

これからも展示会の訪問で事業者様への情報を蓄積したい。



画像①



画像②



会員企業様ご紹介

株式会社ママミール（福岡市南区横手2-9-13）代表取締役 畑中章宏 取締役 進藤浩子



画像はWEBサイトより

ママミール社は2010年11月、株式会社はたなか（産業給食弁当製造）から幼稚園給食部門を独立・分社化し発足。

2005年7月にHACCP認証を取得（当時は、(株)はたなか第2工場）、現在も維持継続中。

福岡市内・外の幼稚園への給食サービスや食育推進に取り組んでおり、特に食育については、提供する給食の安心・安全はもとより、コラムや月間献立を栄養バランスや地産地消なども意識しながら分かりやすく情報を提供しています。

ママミールという社名には、お母さんが作るお弁当のようにやさしく・おいしい・愛に満ちたお弁当をお届けしたいというとても強い想いが込められています。（HPより参照）

*次回はその食育レポートを掲載予定。

ホームページ <http://www.mama-meal.com/>



会員の方の投稿、おまちしております！
こちらまで、メールでどうぞ！
info@npo-ikitabemirai.org



イベント情報

FOOD STYLE Kyushu

日時：11月13日(水)～14(木)

場所：[マリンメッセ福岡](#) A館・B館

今年も開催されます。

◇[入場には事前登録](#)が必要です。お見逃しなく。

*詳しくは、WEBで (<https://foodstyle.jp/kyushu/>)



画像はWEBサイトより



コラム：私の提言

肥大化するハラスメントと失われていく大切なもの

最近失われつつある言葉がある。「頑張れ」、言い方次第では危ない言葉もある。「おまえ、てめえ」「やる気あるのか」、「馬鹿、死ね、殺すぞ、あほ、」は、完全にアウト、禁句である。本心から言っていないにもかかわらず「死ね、殺すぞ」が、訴えられる時代である。怒りの言葉が失われていく、感情をむき出しにすることが禁止事項となった。

それらの言葉は、以前、体育会系クラブの経験がある人や上司が部下に対して使った叱咤激励するときに使っていた。今は感情をむき出して、欠点を指摘し叱咤激励するのではなく、良いところを褒めることになった。何が良いのかわからないがとりあえず「いいね。」・・・極めつけは、「頑張らなくていい。」これは言語道断である。結果として忍耐力が失われたと感じる。

怒鳴られて、パワハラ、アカハラと騒ぐより、なぜ、怒鳴られたのか自問し、反省することが大切である。教職者が叱ることを怖がり委縮してしまった。本末転倒の時代である。

小学校のとき地黒で色が黒かったから、「くろんぼ」「だっこ」（当時流行したく黒人のだっこちゃん人形に因んで）と呼ばれていた。中学校の時、職員室で土下座させられ、びんたをたたかれた。高校では、上級生に呼び出され、殴られた。親にも言わず、学校を休むこともなかった。いじめを受けても私はひねくれて育ったとは思っていない。自己主張の大切さを学び、精神的にたくましく育ったと思っている。

感情を抑えきれないのは、人間の本質である。本能や感情を抑えるのが「理性」であるが、人間には、完全・完璧な人はいない。ましてや言語表現力が豊かな人は珍しい。

努力は、成就して初めて「努力」であり、厳しい言い方かもしれないが成就しなければ「徒労」である。途中であきらめて、それに対して「頑張ったね」という風潮がこどもや社会をダメにする。多くの人は徒労を努力と勘違いをしている。徒労の時に頑張ったねと言って慰めてしまえば、そのこどもは、どのように育つのだろうか。頑張ってやり遂げる経験をしたことがないこどもは、かわいそうである。小学校や中学校では、「くやしき」を学ぶ機会が失われた。

兵庫県斎藤知事がパワハラで糾弾されて、失職した。関係者数名が自死したと言われている。パワハラに賛同するつもりはないが、最近は、忍耐力がなくなったように感じる。知事を擁護するものでもないが、権力者である知事を悪者に仕立て、県政に支障をきたしてまで糾弾し続け、失職させたのは異常である。公務員が束になって居心地の良い職場づくりに奔走したと感じる。29歳代の時、直属の上司が自死した。重責部門の激務と部下との反目が原因だと思っている。当時、原因調査もなく、葬儀への参加を断られ、頭の中で「反発しすぎたかな」と反省しただけで終わった。私が師と仰ぐ中内功氏の言動は、私にとって叱咤激励であった。今なら、周りから見るとパワハラそのものかもしれない。激怒する方も辛いものである。部下を育てたい、愛情を持った言動であり決してストレスの捌け口ではなかったと信じている。原因を誰かのせいや社会、環境、病気のせいにする、したがる、そんな風潮がある。それでは、なんの解決にもならない。最近、「カスハラ」（カスタマーハラスメント）という言葉聞くようになった。私は、クレーム＝「お客様からの改善提案である。」と教えられた。クレームの原因は、ほとんど販売側・サービスの提供側にある。お客の勘違いも勘違いさせる販売側・サービス側に責任がある。ダイエー店長やアステル九州の顧客部長として顧客対応したものの経験である。「まずかった」と気づくこと、そこから改善が始まる。電話口で「殺すぞ」と怒鳴る人がいる。オペレータには、「電話で殺しようがない。受話器からナイフは出てこない。」そんなことを言って慰めたこともある。嫌な経験ではあるが、クレーマーに真摯に向かい合い、自分で対応する。そんな経験の積み重ねが自分を強くする。今は、嫌なことから逃げている、大声を出すお客はいる。何時間もクレームを言い続ける客もいる。そんな客を自分の味方にするのが顧客対応である。パワハラ、カスハラ、マニュアルは全て逃げる対応である、原因を自分以外に求め、他人のせいにする、それに対応できる忍耐力をつけるのがいま一番重要な社員教育のように思えてならない。こんな考えをする私は時代錯誤だろうか。「過去と他人は変えられない」。原因を自分以外、環境、社会に求めても何の解決策にならないことは自明の理である。

文責：川上龍太郎

「高齢者がウェルビーイングでいるための条件」 は、以下のように言われます。

1. 身体的健康：定期的な運動やバランスの取れた食事を通じて、体の健康を維持する。
2. 精神的健康：ストレス管理やポジティブな思考、趣味を持つことで、精神的な充実感を得る。
3. 社会的つながり：家族や友人との良好な関係を築き、コミュニティに参加すること。
4. 自己実現：新しい挑戦や学びを通じて自己成長を感じる。
5. 目的意識：日常生活の中での目標や意味を見出すことが重要。
6. アクセス可能な支援：医療や介護のサポートが受けやすい環境を整える。
7. 居住環境：安全で快適な住環境がウェルビーイングに寄与する。

上の要素を意識することで、高齢者はより良い生活の質を保つことができます。

11月に72歳を迎えます。自慢話になりますが、退職してからの12年健康診断はすべての項目で評価Aです。一切服薬していません。丈夫に産んでもらった両親に感謝しています。

改めて自分の生活習慣を振り返ると、健康管理に気遣いしているようです、いわゆる健康オタクですね。

定期的な運動は、マウンテンバイク、ボーリング、卓球です。

- 52歳からロードバイク、今はマウンテンバイクです。
50代は、120km走ることもありました。単身赴任先に自転車を持ち込み、通勤はもちろん、土日は自転車三昧でした。何より様々な職種、若い友人が増えたことが財産です。
- 苦手のボーリングを64歳から始めました。健康ボウリング教室のチラシがきっかけです。週2回リーグ戦を楽しんでいます。新しい友人、スコアなどの目標達成、対戦相手との駆け引きなど、皆さんと楽しく、競い合っています。
- 70歳から全く経験のない卓球を始めました。公民館で週2回2時間弱楽しんでいます。やっとなってきました。
- 週1回整骨院に通っています。決まった整体師に整えてもらっています。体の不調、アンバランスを相談し、客観的に評価をうけます、掛かり付けマッサーです。
- 毎日体組成計でコンディションを可視化しています。

以上が私の実践している、定期的な運動で体の健康を維持する手段です。

しかし、パーツはサビ付き、CPUも時代遅れで、時々悲鳴を上げることがあります。

文責：高崎 公敏

かつてパン作りを生業にした者のひとりごと

1952年生まれ私のパンの記憶は、学校給食のコッペパンからです。大きなバケツからアルミ製の食器に注がれる脱脂粉乳のミルクと共に、同世代の記憶だと思います。

不味く、楽しくなかったと記憶していますが、コッペパンと脱脂粉乳のおかわりで、私は、丈夫に育ったと自覚しています。



後にパンの製造、開発に携わることになり、コッペパンをたびたび作るようになりましたが、その度、当時のパンを思い出します。

なぜ、学校給食が米飯ではなく、コッペパンだったのかについて、今まで深く考察することはなかったので、改めて調べてみました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1945年8月、日本は終戦とともに未曾有の食糧難時代をむかえ世情不安となった。同年10月には地方の疎開先から学童達が都会に戻ったものの食料はなく、米軍の緊急食糧放出、海外からのラウ物資、ガリオア、エロア等の援助物資で急場をしのいだ。これはアメリカ初め諸外国の好意の援助であり、まさに千天の慈雨であった。



政府にとって欠食児童救済は急務であり1946年から学校給食が始まった。主食はアメリカからの無償援助小麦によるパンであった。

アメリカから入港した給食物資運搬船

出典：独立行政法人日本スポーツ振興センター

1949年 / 昭和24年

当時食糧難に加え米の生産量が上がらず、アメリカの援助小麦に頼らざるを得ない事情があったので必然的にパン給食となったのである。

アメリカ頼みの給食であったが、1952年4月講和条約が発効すると日本は占領時代が終わり形の上では独立国となりアメリカからの無償援助は終わった。同時に学校給食もピンチとなり、財政難から給食費は有料となり給食辞退者が続出し大きな社会問題となった。

この頃から食糧事情は次第に好転し、学校給食に米飯を取り入れることも可能な時期ではあったが、1954年学校給食法が成立しパンとミルクという形が継続された。パンが主食となると副食はミルク、卵、バター、チーズ、肉類、油料理などの洋食スタイルとなり、味噌汁、漬物、野菜の煮物や豆腐、納豆、梅干し等の伝統食は遠ざかる。

当時厚生省は日本の伝統的な食生活ではなく、欧米流の栄養学に基づく「進んだ」食生活を普及させるという「栄養改善運動」を熱心に推進していた。その線に沿った献立が学校給食で出された。

そしてその運動を裏で強力に支え資金援助したのがアメリカであった。

当時アメリカは膨大な量の農産物の過剰在庫をかかえ苦しんでいた。

一刻も早く農産物を輸出しないと財政悪化はさらに進み農民の不満も増大していた。

アメリカは日本等を標的に本格的に余剰農産物の輸出作戦を開始したのである。

パン用小麦は日本では産出されず、パン給食を続けるということはその原料を全量アメリカからの輸入に頼ることになる。そこがアメリカの狙いであり、このパン給食の裏にはアメリカの高度な政治戦略があった。アメリカは膨大な余剰農産物処理の為、日本の学校給食でパンとミルクという給食を長期的に定着させようと画策したのである。

「アメリカ小麦戦略 No.1」 鈴木猛夫

学校給食がコッペパンだったのは、保存がきき、配給や保管がしやすいからだと言われています。戦後の食糧難の時代において、安価で大量生産が可能なコッペパンは理想的な主食でした。さらに、アメリカの小麦援助があったことも関係しています。コッペパンは日本の学校給食にぴったりの選択肢だったようです。次号に続く

文責：高崎 公敏



食べもの 紀行



10月17日から19日まで沖縄に行ってきました。心残りであった沖縄の南部戦跡を訪ねました。30数年前の沖縄出張の折、時間足らずで中に入らなかったひめゆり平和記念資料館、沖縄平和記念公園などバスガイドさんから十分な説明があるだろうとあえて定期観光バスの一日コースで戦跡を回ることになりました。

翌日は、沖縄県立博物館、壺屋焼物博物館を巡りました。那覇に行ったとき、必ず立ち寄るお店、沖縄料理のお店「あかきたな」を紹介します。牧志公設市場の裏にあり、10年前から値段が変わらず、コロナ禍でも生き延びた地元の人に愛されるお店です

私が行った時も、公設市場は中国人を中心に観光客がごった返していたが、このお店には観光客らしい客は一人もいませんでした。私がいつも注文するのは、オリオン生ビールとグルクン（沖縄県魚、スズキ目タカサゴ科）の南蛮漬け、じーまみ豆腐、らふてい、沖縄そばセットになって1,100円、コロナ前と同じびっくり価格です。牧志公設市場が改装され2階は満席でにぎわっていたが、私は、那覇の昼食ならば自信をもって「あかきたな」を推薦します。（川上龍太郎）



10月にご加入いただいた方

株式会社鶴見運送様（大分県別府市）

ご加入ありがとうございました。

住所は、居住地又は勤務先の住所を表示しています。





コーヒーブレイク

◆図書紹介：今月は、源麴研究所の会長である山元正博氏の図書と日経新聞社編集委員吉田忠則氏の図書を紹介します。

「麴のちから！」 発行所 風雲社



著者である山元正博氏は、私が10数年前から数回会社を訪問し、話を伺い、麴菌に興味を持つきっかけとなった人である。薩摩焼酎の麴菌である河内菌を発見した河内源一郎氏の孫であり、その麴菌が持つ免疫賦活効果や環境汚染の浄化作用に着目、東京大学で微生物を学んだ知識を活かし、ドリンク剤としての「麴の力」、養豚用飼料、浄化装置を販売する事業を行っている。

韓国のマッコリは、戦後河内源一郎商店で勤務していた社員が韓国に持ち帰り、今では誰もが知るマッコリになった。麴に興味がある人には必読の書である。発行から12年経ったが色あせることなく、記載の内容は充分現在でも参考になる。

「農業崩壊 誰が日本の食を救うのか」 発行元：日経BP



著者である吉田忠則氏の書籍はジュンク堂書店の農業・環境関係の売り場に行くと必ず見かける。日経新聞の記者として、農業を追いつけ、根本的な課題と農業へ参入した大企業の失敗を分析し、方向性を示唆した本である。

田畑の実態から流通、スマート農業など幅広く取材している。最近の著書として「不連続と闘う農 食料安保・脱炭素・異常気象」がある。他に「農は蘇る」「コメをやめる勇気」がある。

農業に興味がある人におすすめしたい本である。



編集後記

先日、羽田まで搭乗する機体が落雷にあったということで、遅延するとのこと。当日中には、乗れないのかな？と思ったら、なんと50分遅れて別航空会社の飛行機に搭乗することができました。各航空会社のスムーズな対応にびっくりでした。会員様も、飛行機を使われることは多いのでは？（く）は、空の旅が大好きなのですが、そう感じるのは、多くの方々に支えられているからなのかもしれませんね。

「特定営利活動法人 生きものと食べものの未来」も、会員様に支えていただいています。どうぞ、今後とも、よろしくお願いいたします。

会員の方々からの、投稿をお待ちしております。

テーマは、環境・農・食、教育、福祉など何でも構いません。

企業のご紹介やイベントのおしらせ・よろずご相談などなど、どうぞお気軽に下記メールまでお知らせください。



info@npo-ikitabemirai.org

WEBサイト・FBページ・インスタ もあります。 マークをクリックして、覗いて見てくださいね！



（く）

令和6年11月 発行責任者 川上龍太郎